

武田尾から高座山・名塩を歩く

第 99 回武庫川エコハイク
20150711 エコグループ・武庫川

武庫川 全長 65km、流域面積 500km²。篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門(むこみなと)」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。本川の源流は篠山市にある。篠山市から三田盆地までは緩やかな傾斜であるが、道場を過ぎると武庫川渓谷の急流となる。武庫川下流の治水対策として武庫川渓谷に治水ダムが計画されたが、県は武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

JR 武田尾駅 阪鶴鉄道が三田まで開通した明治 32 年(1899)に温泉橋前に開設された。昭和 61 年福知山線複線電化に伴い現在地に移設された。駅施設の大部分が武庫川橋梁上とトンネル内にある。

ふるさと桜づつみ回廊 兵庫県が瀬戸内海と日本海とを桜で結ぶ計画が「たけだお」が平成 10 年に完成。

水管橋 神戸市水道局千苅水源池から西宮の上ヶ原浄水場への送水管、大正 8(1919)年完成、橋脚は近代土木遺産の一つ。

温泉橋 旧武田尾駅の改札口前の位置にある。この辺りの家屋 23 戸は平成 16 年 10 月の 23 号台風で床上浸水の被害を受け、現在洪水対策として地盤嵩上げ工事中。

武庫川渓谷の兩岸地形 20～30 万年前六甲山が上昇し、これに伴い武庫川の流れる沖積平野も上昇した。武庫川は土地の上昇を穿谷し先行河川として残り、蛇行する武庫川渓谷となった。この結果、右岸の山上には大阪層群の地層が残り、標高 300～350m の平坦な台地が、左岸には 350～400m の台地が形成され、右岸には読売ゴルフ場が、左岸には宝塚クラシックゴルフ倶楽部(旧スポーツニッポンゴルフ場)ができた。

桜の園「亦楽山荘(えきらくさんそう)」 名塩ハイキングコース途中で対岸に桜の園を望むことが出来る。桜の園「亦楽山荘」は面積約 40 ヘクタール、笹部新太郎氏(1887～1978)の桜の演習林で、最盛時には山桜、里桜が 30 種 5 千本が植えられていたという。現在は宝塚市の里山公園。「亦楽山荘」は建物を指すのではなく、演習林全体をさす。現在里山ボランティアグループ「櫻守の会」が保全活動を行っている。(現在園内一部通行止めあり)

読売ゴルフ場(よみうりカントリークラブ) 武庫川右岸の台地には昭和 36(1961)年イーストコース、昭和 37((1962)年ウエストコース開場、36 ホールコース。

ドクラ丸山 標高 346m。ゴルフ場内の小山。地元では小山のことを「丸」という。ドクラは地名。

唐子大丸山 標高 376m。ゴルフ場内の小山。唐子は地名。

高座山 標高 345m、高座山中心に「高座山ふれあいの森」がある。里山が整備され南部に名塩和紙の材料のガンピが自生している。隣接して西宮市名塩貯水池がある。

西宮名塩ニュータウン 住宅・都市整備公団が開発し平成 3(1991)年に街開きされた。愛称は「創造の丘ナシオン」。総面積約 243 ヘクタールあるが駅に近い地区中心に開発が進み、駅から遠

い地区は未開発のままである。

名塩川 武庫川の支流のひとつ。源流を赤坂峠付近に持ち、左岸から読売ゴルフ場を源流とする細野谷川、猪切谷川、右岸から西宮高原ゴルフ場を源流とする尼子谷川が合流する。六甲山北側の雨の多い気象条件の下、武庫川渓谷の最下端で本川に合流する。延長 6.2km、流域面積 15.6 ヘクタール(武庫川流域の約 3%)。流域は有馬層群の流紋岩質。

名塩 地名の由来は定かではないが、地内に塩類泉があったという。またこの地が塩尾寺山内にあることから内塩と呼ばれていたとか諸説が多い。

くらがり街道 西宮道、丹波道ともいい、丹波杜氏が西宮の酒作りに通った道。約 65km の道を、夜中に丹波を発ち、夜中に西宮に着いたという。これから「くらがり街道」と呼ばれるという。

紙祖東山弥右衛門の墓 東久保からくらがり街道を西進したところにある。

名塩紙 名塩は和紙で栄えた。江戸中期から明治にかけて名塩千軒といわれるほど、ほとんどの村人が和紙に関わったといわれる。現在は谷野武信氏が間似合紙(まにあいがみ)の伝統を守っておられる。雁皮を原料とし、特殊な土を配合して変色しにくく、虫がつかない特徴がある。襖絵、書画用壁紙、神社のお札に使われる。平成 14 年名塩紙は国の指定文化財になり、漉き手の谷野武信氏は人間国宝に認定された。

紙祖東山弥右衛門 時代は戦国時代末期とか江戸時代初期といわれるが明確ではないが、名塩の人弥右衛門が越前に行き、製紙家の婿養子になり、製紙の技術を習得し、妻子を残し、名塩に帰り製紙の技術を広めたという。これにより名塩の和紙作りは大いに繁栄した。弥右衛門の妻子が弥右衛門を追って、名塩に来たが、村人が弥右衛門を引き止めるため、家族の再会を認めなかったため、妻は狂死したという秘話がある。これを作家水上勉が小説「名塩川」として発表した。

名塩和紙学習館 西宮市立郷土資料館の分室。紙漉きの体験も出来る施設。

教行寺(きょうぎょうじ) 文明 7(1475)年本願寺派門主蓮如上人が創建され、名塩御坊と呼ばれる。境内に蓮如上人が挿された杉箸が大きくなったという箸杉があったが落雷、台風の被害で危険になり、根元だけが残されている。

蘭学通り 国道から脇に入ると「くらがり街道」今は「蘭学通り」と名付けられている。

名塩蘭学塾 大阪緒方洪庵の適塾の塾頭伊藤慎藏が文久 2 年(1862)にこの地に開設し、多くの学者を送り出した。ここは緒方洪庵夫人八重の生地であり、この地が選ばれた。現在、JA 名塩支店となっている。

名塩八幡神社 文明年間京都男山の岩清水八幡宮で勧請したという。

名塩道路 国道 176 号線バイパス。現 176 号線の混雑を避けて中国道北側の山腹にトンネルを掘って開通し、名塩集落内を走る国道の混雑、危険が回避される。

名塩下滝 ニュータウン近くの名塩川にある滝。途中で二股に分かれる。

JR西宮名塩駅 昭和 61(1986)年福知山線の複線電化に伴い、線路の付け替えが行われ、新駅が誕生した。西宮名塩ニュータウン、名塩川流域の住宅開発にも対応している。今は武田尾駅まで 2970mのトンネルで結ばれている。